

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第60号

目次

- 令和4年度新資料展示「新発見!鎌ヶ谷のたからもの」を開催・・・1～2
- 郷土資料館この一品⑩……………2
- 歴史講演会 I を開催／「縄文人の生活ウォッチング」開催報告……………3
- 史料整理の現場から⑨……………4

令和4年度新資料展示を開催

新発見! 鎌ヶ谷のたからもの

～あたりまえの日常って、なんだっけ?～

この新資料展示では、令和3年度に寄贈された歴史・民俗資料と、新たに発掘した埋蔵文化財をご紹介します。特に今年度の歴史・民俗資料コーナーは少し趣向をかえ、一見バラバラに見える展示資料に小さなテーマとメッセージを込めました。

終わりの見えない新型コロナ、世界各地で起こっている紛争、年々深刻さを増す自然災害……。ここ数年、私たちの生活は見えない緊張感にしばられ、ずっと非日常が続いているような気がします。そんな不安定な今だからこそ、私たちが何気なく使っていたものや何気なく過ごしてきた場所、空気のように隣にいた人のことなど、「あたりまえの日常とは何だったのか」を改めて考えてみませんか?

7つのミニテーマを設定

歴史・民俗資料コーナーで、今回設けた小さなテーマは、①「コロナ・日常の喪失」、②「戦争の記憶」、③「祈りのかたち」、④「基地と暮



昭和四〇年代に使っていたオルガン



陸軍の飛行帽(昭和19～20年)

らす」、⑤「学びの場」、⑥「ふつう時々ハレ」、⑦「私たちが守りたいもの」の7つで、50点ほどの新資料を展示します。

いくつか紹介すると、新型コロナの感染・拡大にともない、「鎌ヶ谷市民まつり」は令和2年(2019)から3年連続で中止となりました。「相馬野馬追」でみられた勇壮な騎馬武者行列の再開が待たれます(「コロナ・日常の喪失」)。また、急速に普及したエコバッグの先例ともいえる活動が、昭和63年(1988)には自治会連合協議会主導の「買い物袋の持参推進運動」という形

(2ページへ続く)



休館します。

場所 郷土資料館2階展示室

※ギャラリートークは実施しません

(1ページからの続き)

で始まっていました(「私たちが守りたいもの」)。

埋蔵文化財コーナーでは、「向原 No. 1 遺跡」、
「向原 No. 2 遺跡」(東中沢三丁目) などから出土した縄文土器を展示します。

ぜひ郷土資料館で「新しい鎌ヶ谷のたからもの」を見て、資料からのメッセージを考えてみてください。ご来館をお待ちしています。

期間 10月22日(土)～1月29日(日)の
午前9時～午後5時。ただし毎週月曜日および11月3日(木)・23日(水)、12月28日(水)～1月3日(火)・10日(火)は

郷土資料館この一品⑱

渋谷総司の書簡

渋谷総司は佐津間村で代々名主を務めた渋谷家の次男として弘化3年(1846)に生まれ、草莽そうもうの志士として幕末に「赤報隊」の一員となり活動しました。彼の生家の「渋谷家住宅」は主屋、米蔵、門が令和2年8月に登録有形文化財(建造物)に登録されましたが、このたび同家に保存、保管されてきた24,454点の文書や民具の資料を渋谷家よりご寄贈いただきました。これは市内では最大の資料群となります。また、市指定文化財の「渋谷総司の書簡」も寄託いただき、資料館で保管させていただくこととなりました。今回はこの書簡を紹介させていただきます。

この手紙は兄に宛てたもので、時候の挨拶の後に、慶応2年(1866)5月頃の穀物価格高騰による江戸市中での打ちこわしの様子を伝えた後、以前総司に養子の話があったようで、それを断ったことに触れ、刀を一腰こしらえており、7月末～8月初めに出来あがるので、養子の支度金と思って、すぐにではないけれ

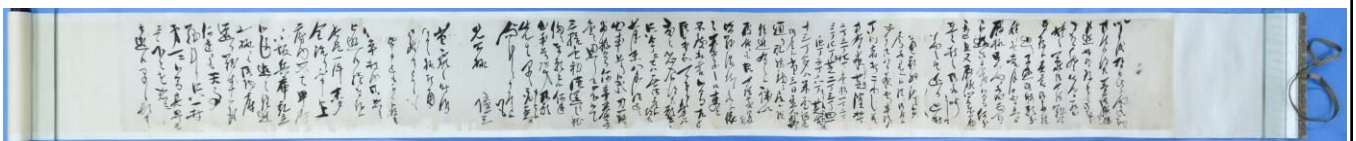
ど30両ほどを用立ててほしい旨の依頼をしています。手紙には日付がありませんが、以上の内容から慶応2年の6月ごろに書かれたものと推定されます。

この手紙では「兄上様」に宛て、「謹三」と記しています。「総司」は亡くなった時の名で、幼名を「清蔵」、その後「謹三郎」と名のっており、名前は活動によって変名を用いたようです。

追伸では、江戸で治安が悪くなっているの、村を第一に村人をいたわってほしいと案じており、故郷の人々を想う気持ちも見えます。

彼の直筆で当時の様子がわかる史料は、現在分かっているのはこれだけです。総司ら赤報隊員が偽官軍として下諏訪で処刑されたのは慶応4年(1868)3月3日で、総司は22歳でした。その約2年前の手紙ですが、この時、総司はどんな未来を見据えていたのでしょうか。なお、展示には現代語訳の全文を添えています。

※書簡については、指定文化財表記により「渋谷」としました。



渋谷総司の書簡(なお、展示資料は複製です)

歴史講演会 I を開催

ふすまの下張りに 隠されていた地域の歴史

郷土資料館では、「ふすまの下張りに隠されていた地域の歴史」をテーマに、今年度1回目の歴史講演会を開催します。

「ふすまの下張り」というと、何やらミステリアスな響きがあります。かつての和風建築では普通に見られたふすまには、作成するときの下張りとして文書の反故紙^{ほごし}が使用されることがありました。反故となった文書は、当時の人は不用と考えたのでしょうが、現在の私たちにとっては近世から近代にかけての歴史を知る上でかけがえのない史料となることがあります。

今回の講演会では、市域を含め多くの下張り文書に関わった第一人者が、貴重な歴史資料が復元できた事例を紹介し、隠されていた歴史を紐解きます。

対象 市内在住・在勤・在学の人

日時 10月30日(日)午後2時～4時

場所 まなびいプラザ研修室1

定員 50人(応募者多数の場合は抽選)

講師 神山知徳さん(昭和学院中学校・高等学校 教諭)

申し込み 10月1日(土)～14日(金)の間に郷土資料館☎445-1030(FAX:443-4502)へ。抽選結果は19日(水)までに連絡します。

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、中止する場合があります。

こんなすごいものが一本松遺跡から出土したんだ！



見て！ふれて！体験して！

～縄文人の生活ウォッチング開催報告～

コロナ渦により中止していた夏休み子ども企画「縄文人の生活ウォッチング」を3年ぶりに開催しました。この講座は、大昔この鎌ヶ谷の地で生きた縄文人の生活を、遺跡から出土した実際の土器を見たり、ふれたり、また火おこしなどの体験をとおして学ぶものです。

講座には小学校3年生から6年生までの9名が参加。まず始めに縄文時代についての講義を受けたあと、3班に分かれて「縄文土器にふれる体験」、「火おこし体験」、「一本松遺跡展の見



難しい！煙は出るけど火がつかない



本物の土器片に興味津々

学」をそれぞれ行いました。

参加した子どもたちからは、「小さな土器のかけらから、色々なことが分かることがすごい。」「火おこしが、こんなに大変だったなんて知らなかった。」などの感想が聞けました。

【史料整理の現場から⑨】 馬にまつわる2枚の御札

令和2年(2020)12月、市内初富の農家の建物調査を行った際、母屋の屋根裏から、たくさんの御札が見つかりました。御札は護符の一種で、守札などともいい、携行可能で身につけられるものは御守と通称されています。神社や寺などで配布される、紙や木の板などに社寺名や祈願文言、神仏の絵などが記されたもので、各種の災厄を除け、幸運をもたらすものとして信じられています。

見つけた御札は、縄で縛られた大きな紙袋に入れられていたものと、散在している状態のものがあり、これらを整理した結果、192種類・計330体の御札が確認されました。その中でひととき目をひいた、馬にまつわる2枚の御札を紹介したいと思います(写真①②)。いずれも現在の市川市国分に所在する、竺園寺(臨済宗)が発行したもので、1枚は「馬頭観世音菩薩」像と牛馬、もう1枚は松の木に繋がれた馬が描かれています。どちらも、馬頭観音の種子(仏像の諸尊を梵字で表したもの)を記した朱印が押されています。

竺園寺は、鎌倉時代後期に造立された十一面観世音菩薩を本尊とし、下総三十三ヶ所観音霊場の第18番札所(巡礼者が参拝のしるしとして札を受けたり納めたりする所)として知られています。なぜ、本尊とは別に、民間信仰では牛馬の守護仏としても祀られる馬頭観音の御札が発行され、また、それはいつ頃のことだったのでしょうか。

『市川市石造文化財調査報告書』によると、竺園寺の境内に、大正8年(1919)以降に建立された馬頭観音塔3基(うち1基は、日中戦争・



①馬頭観音像の絵札



②繋ぎ馬の絵札

太平洋戦争中に出征して死んだ軍馬と思われる供養塔)、また、昭和3年(1928)に陸軍野戦重砲兵第一聯隊によって建立された「軍馬忠魂碑」1基を確認することができます。野戦重砲兵第一聯隊は、大正11年に神奈川県横須賀市から移転し、市川町(現市)国府台に駐屯していた旧日本陸軍の部隊です。国府台と隣接する国分の地にあった竺園寺には、明治中期以降、軍馬の埋葬を取り扱っていたという話が伝わっています。

一方、御札が見つかった旧家は、明治初年の初富開墾の際に入植しました。御札の宛先や、御札とともにあった暦・筒粥表、その他の文書などから、大正初年から昭和30年代頃までのものが、まとまって残されたと思われます。聞き取りによると、かつて馬屋があり、馬を所持していたこともわかります。

竺園寺と馬とのかかわり、また全国的にも、馬頭観音の造立数が明治半ばから大正年間にかけて最盛期となることとあわせ、2枚の御札の来歴の一端が垣間見えるように思います。

なお、今回ご紹介した御札は、10月22日から開催する令和4年度新資料展において展示します。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第60号 令和4年9月15日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502

メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp

ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html